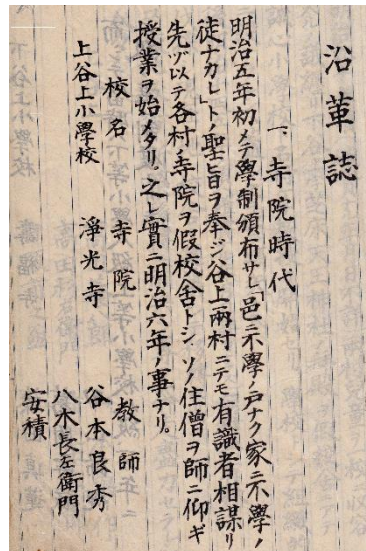


# 谷上小学校 沿革史から

## 開校～明治末まで

谷上小学校は、明治6年（1873年）に浄光寺で上谷上小学校、寿福寺で下谷上小学校として開校されました。校長室の金庫に残る古い「沿革史」に、明治5年の学制発布を受けて「谷上ノ村ニテモ有識者相謀リ先ヅ以テ各村寺院ヲ仮校舎トシ、ソノ住僧ヲ師ニ仰ギ授業ヲ始メタリ。之レ実ニ明治六年ノ事ナリ。」とあり、上谷上小学校「谷本良秀・八木長左衛門・安積」下谷上小学校「藤田真蓮・葛岡壽蔵・甲山諦純」とそれぞれ3人の教師の名前が書かれています。

### 校長室の金庫に残る沿革史



この2校が統合されたのが、明治9年頃です。一校に收容するために、下谷上字芝床の天王神社（現八坂神社）の拝殿で「誠心小学校」と名づけて教授を開始しました。そして、今の地（下谷上字中上）に校舎が建築されたのは、明治14年の頃だそうです。校舎の新築移転に際して尽力された人として、地域の方のお名前が残っています。

### 木造校舎建築中 明治中頃

明治20年に村立谷上簡易小学校と改称されています。（八部郡第五番学区）当時は、まだ神戸市ではなくて、八部郡（やたべぐん）山田村でした。修業年限は3年でした。

明治24年には村立谷上尋常小学校と改称され、修業は4年とされました。児童数109名との記録が残っています。当時はまだ無償制ではなくて「授業料一人金貳銭、一戸二人以上出席ノ者ハ半額」とあります。全国のが就学率も50%程度です。明治33年には、小学校費国庫補助法無償制の確立で飛躍的に就学率が向上し、明治の末にはほぼ100%になっています。また、この頃から、先生は、「教員」ではなくて「訓導」として着任しています。

明治29年には、郡の併合があり、八部郡から武庫郡となり、このことが神戸市に編入される昭和22年までつづきます。また当時の時間割をみると、週当たり「修身3時間・読書7時間・作文3時間・習字6時間・算術6時間・体操3時間」とあり、正に「読み・書き・そろばん」重視の授業であったことがわかります。また、3年生以上の女子は、「体操一時間ヲ減ジ裁縫科教授ノ時間ニ充ツ」とあります。

明治30年頃からは毎年の在籍数や卒業生の数が明確に記録に残っています。ちなみに明治34年在籍135名 卒業生27名です。明治35年に首座訓導を廃し、校長の名称が設けられています。また、明治37年（1

904年)の日露戦争の年には、出征軍人に毛糸の胸当てを140個寄贈したとか、敵国降伏祈願祭に参列したとか、地元の出征軍人の村葬に児童が参加した等の記録も残っています。当時の富国強兵政策がこの地にも行き渡っていたことがわかります。

### 明治39年卒業生(今の4年生)

明治41年に義務教育が6ヶ年となり、その結果教室が不足して、翌年に2588円の予算で増築工事をしたと今の本校のようなことも記録されています。またその年には、今のPTAのようなものでしょうか「母ノ会開催、参列セシ母ノ数百三名」とあります。

明治45年、児童数216名。今の本校とほぼ同数ですね。そしてこの年に飼育小屋の前にある碑「盛本萬右衛門さんの初老の記念(40才)」で奉安庫が寄贈されました。

#### 「初老の記念」碑

### 大正～終戦

明治45年明治天皇の崩御に伴い、大正と改元されました。この年、第一回の尚歯会(今の敬老会)が開催されています。

大正2年(1913年)4月1日より「全日二部教授開始」とあり、一、二年半日二部、四、五年普通(複式)、三、六年全日二部 計五学級、教員四名となっています。ちなみに児童数230名 先生4人で5学級です。

大正3年9月には、日獨戦報告記念祭職員生徒参拝とあり、第一次世界大戦への参戦が分かります。

大正5年には、「山田部研究教授会開催」とあり、1年生の国語、2年生の算数の研究授業が行われています。

大正10年には、第一回の運動会が開かれています。この年に生まれたおばあちゃん(92歳)が今もお元気でふれあい給食にいらっやっています。

### 大正11年卒業生

大正12年には、村内に流行性感冒が蔓延して、校医が全児童の診察をしたとの記録も残っています。この年には、第一回の学芸会が開催されています。

大正13年には、「新入学スベキ児童二就キ身体検査施工セリ本県最初ノ試み也」と兵庫県初の就学時検診が実施され、以後「毎年之ヲ行フ規定」がされています。9月1日には、関東大震災から1年の「震災記念講話会」が催されています。10月には、修学旅行として、4年以上72名が「須磨寺参拝他」に出かけています。校歌の制定もこの年です。今の校歌ではなくて、曲は「勇敢なる水兵・・・」という軍歌に歌詞をつけたものです。ちなみに1番は、「扇港の北、摩耶の裏 山は緑に水清く 歴史に留める学び舎は 我がなつかしき谷上校」・・・以下6番まで続きます。また、このときに校章も制定されました。

大正14年には、高等科が併置され、谷上尋常高等小学校と改称されています。この年5月23日「強震アリ但馬地方被害甚敷」(北但馬地震)とあり、「義捐金募集」をした記録が残っています。

大正15年11月から12月にかけては、大正天皇の平癒祈願を職員児童一同で「遥二東方伊勢大廟二向カッテ」とか「両谷上氏神参拝」等の記録が残っています。

12月25日大正天皇が崩御し、昭和元年になります。わずか7日間の昭和元年です。昭和3年に神鉄有馬線が開通します。子どもたちのくらしも大きく変わったのではないのでしょうか。

### 昭和10年頃の卒業生

昭和に入ると沿革史も細かい記述がされています。職員の異動から始まって、学級担任・校務分掌の決定、職員会議の定例化、春の遠足の行き先、身体検査、教育視察団、漬物講習会、マッサージ講習会、運動会、学芸会、研究発表会、唱歌演奏会、文集「谷の花」の発行、種痘検診等々、一日毎の記録が残っています。この当時、回

虫が多かったのでしょうか。「回虫卵採集」海人草（マクリ：回虫の薬です）服用ということが学期に一回は記録されています。昭和15年には、職員の宿直制が実施されています。

昭和16年に「国民学校」と改名され、いよいよあの悲惨な時代に入っていきます。12月8日「英米ニ対シ宣戦ノ詔勅発セラレ児童ニ訓話ス 必勝祈願ヲナス」翌17年2月16日「シンガポール陥落ス児童ニ訓話ス」3月16日「戦死者芝〇〇氏村葬ヲ校庭ニ於テ執行サル」とあり、ここまでで戦前の沿革史は終わっています。戦争の激しさで、沿革史どころではなかったのでしょう。

## 戦後

昭和22年、武庫郡山田町が神戸市兵庫区に編入され、神戸市立谷上小学校となりました。

戦後の沿革史が残っているのは、昭和27年からです。児童数351名。この時代から数年は、今、子どもたちがたいへんお世話になっている自治会・婦人会・長寿会など地域のみなさん方が小学生だった頃のことです。昭和29年に新校歌が制定されています。

### 昭和26年 現長寿会会長さんが6年生のとき

#### 昭和31年の1年生 後ろは、宿直室

30年代は、全国学力調査の記録や「友情のホタル」を市街地の学校に贈った記録が残っています。当時は、ホタルがたくさんいたのでしょうか。ホタルは、いつとき見られなくなりましたが、地域の皆様のご努力でまた復活してきました。今年もいたるところで見ることができましたね。

### 昭和32年の学芸会

今は、夏になるとプールで水泳の授業をするのが当たり前ですが、当時は、プールはなく、池や川で泳がせていたのでしょう。「校区内に五ヶ所の水泳場を設置し、時間を限定して水泳を許可。PTA 監視のもとで水泳を実施した。」とあります。また、夏休みには、「4年生以上が須磨海岸で水泳訓練をした。」との記録も残っています。30年後半には、唐と小や有馬小へ出かけてプールを借りて水泳の授業をしています。その後昭和40年からは、昭和48年に運動場に仮設プールができるまで、山田中学でおこなわれています。

### 運動場に仮設プールができた40年前

昭和43年には、今の校章が制定されています。

昭和40年頃から山の街・大池・花山の団地開発に伴い、児童数がどんどん増えていきました。毎年200人規模で増えていき、ピークは、昭和44年の1124名。6年生が4学級、2年生～5年生が5学級、そして1年生はなんと6学級ありました。それもほとんどが1学級あたり40人という大規模校でした。電車通学率は90%にのぼり、安全通学が当時の一つの命題でした。この間、今の本館・新館の建築中ということもあって、運動場は、仮設教室と資材置き場に使われていて、天地をひっくり返したような学習環境でしたが、子どもたちはよく耐えて学習に励んだと記録が残っています。

### 新校舎建築中

### 通学風景

昭和44年8月に本館が、翌3月に新館が完成しました。今の校舎です。

昭和45年4月桜の宮小が分離します。それでも児童数894名。そして、今から40年前、昭和48年は、

開校百周年です。

### **百周年記念運動会 児童数973名**

その年、年度末には、大池小が分離します。児童数は、いっぺんに600人減の296名になり、通級教室「きこえとことばの教室」が開設されます。昭和51年には、花山小学校が分離し、ほぼ今の校区の枠組みになりました。児童数も196名となり、この後、昭和末まで200名前後、そして平成に入るとだんだん減っていき、平成12年からは100人を切り、平成14年には、全校生87名にまで減っています。

しかし、谷上駅周辺の再開発に伴い、谷上南町・東町・西町に住宅やマンションが多く建てられ、人口が急激に上昇しました。それに伴い、小学校の児童数も増加に転じて、平成20年には123人、平成25年には218人、平成28年には255人となっています。今後も更なる増加が予想されています。

### **終わりに**

校長室に残る沿革史から、本校の歴史の一端をまとめました。学校の設置場所は「上谷上」と「下谷上」の交わるころ。新しい町は、谷上〇町とすべて「谷上」が頭に付いています。あらためて「谷上地域の小学校」という皆様の想いが脈々と受け継がれての百数十年ということ強く思いました。百数十年といっても、一年一年の積み重ねで今の本校があるわけです。そう考えると今の1年生と百数十年前の1年生が繋がってくるから不思議です。

明治6年の創立以来変わらない六甲山と丹生山の緑に包まれて、今までがそうであったように「すこやかに おおらかに谷上の子が伸びていく」よう、学校・家庭・地域が力をあわせてともにがんばりましょう。これからもどうぞよろしくお願ひします。

学校長